

岡山醫學會彙報

岡山醫學會通常會

同會は本月十六日午後三時より岡山醫科大學生理學教室に於て開會せり田村庶務主幹開會を報じ直ちに左の講演に移る

第一席 過血糖の解毒作用に就て

生理學教室 林 香 苗 君

當生理學教室の Respirationscalorimetrie の成績に依れば、家兔の靜脈内に葡萄糖液を注入し、又は糖刺を行ひ人工的過血糖を起さしむるとき、一定期間該動物の酸化機轉の増昇することを示せり。

余は家兔に於て最少致死量を目標として硝酸「ストリヒニン」、「テトロドトキシシン」、「ピクロトキシシン」等の藥品及び窒扶斯死菌浮游液を用ひし場合、豫め葡萄糖液の靜脈内注射乃至鹽化「アドレナリン」液の皮下注射等の前處置によりて人工的過血糖を惹起し置くときは著しく最少致死量を變化する程度のもど然らざるものどあれども何れも動物の抵抗は前處置なきものに比して高まり、又その際「アドレナリン」皮下注射の效果は時間的に「アドレナリン」過血糖と大體平行せることを認めたり。

余は此丈けの事實を以て直ちに過血糖の眞意義が身體酸化機轉の増昇即ち身體細胞機能の増進であり、身體細胞機能の増昇にて過血糖に関する總ての事實を説明し得るや否や斷言せんと欲せざるも、少くとも過血糖は身體諸毒物に對して解毒作用を有し、一般に動物が身體の有害作用に對して斯く抵抗力の昂まるのは恐らくその際表はるる酸化増進即ち身體細胞の機能増進に基くものならむと思ふと欲す。 (自抄)

第二席 「ヂフェレンシャル、スペクトロスコープ」の供覽
竝酸化「ヘモグロビン」と一酸化炭素「ヘモグロ
ピン」との割合を定むる新法

奥山美佐雄君

器械の示説竝新測定方法の要旨を簡單に述べたり。

第三席 腎臟分泌機能に関する研究

生理學教室 西 丸 和 義 君

第四席 種々なる部位の血管に関する研究

生理學教室 西 丸 和 義 君

右二題共不日本誌に發表せらるる筈なり。

第五席 血管運動神經及び毛細管の收縮性に関する二三の研究

醫學博士 生 沼 曹 六 君

著者が嘗て此問題に關して業績を發表して以來諸方面から多少の異説が出てゐるので此度の外遊を機會に新に其問題を蛙に就て再驗し次の成績を得た。

- (1) 毛細管の内には稀に獨立の收縮性を有てゐるものがあるけれども一般には其性質がない。
- (2) 一般の毛細管に見る多少の擴張及び收縮は小動脈の縮張に一致す即ち血壓の變化に伴ふ彈性縮張である。
- (3) 毛細管の内には稀に交感神經よりの衝動によりて收縮するものがあるけれども一般の毛細管は交感神經の興奮によりて小動脈の收縮による血壓の下降に伴ふ彈性復舊以上の收縮を認めない。
- (4) 一%「アドレナリン」液を蛙の蹠膜に滴下すると其毛細管は擴張し且「ノルマル」の彈性を失ふに至る又「ヒスタミン」液を滴下するも毛細管の擴張を認めない。
- (5) 脊髓神經の後根刺戟によりては小動脈の擴張を起すけれども毛細管の擴張は認めない。
- (6) 後根刺戟に伴ふ小動脈の擴張は動脈の緊張を減少するによる。
- (7) 皮膚に至る知覺神經蛙の舌に至る舌咽神經を刺戟するも其等神經の分布部に小動脈の擴張を認める。(自抄)

次に各標本の活動寫眞の供覽ありて午後五時半閉會したり。